

シネマ203

北ぶらくり丁の小さな映画館

たまにはちょっと、映画でも



📺 見たい映画を見逃す心配のない映画館に【日時オーダー受付中】

- 毎月の土日祝を中心に、シネマ 203 が上映時間を設定してスケジュールを発表します。
- 見たいのに行ける回がない！ という非常事態には、お気軽に **日時オーダー** お寄せください。
スケジュール空枠内でご希望の時間に、ご希望の上映作品を、追加上映いたします。
(追加上映は、HP、Facebook、Instagram で随時更新しますので、どなたでもご来場ください)
- 当日券あり、いつでもふらりとご来場ください。
なお、15 席の小さな劇場ですので、ご観賞の事前予約も各回 10 名様まで承ります。
(HP のスケジュールページに予約フォーム有。電話、メール、SNS メッセージでの予約も歓迎)

最新スケジュール →



📺 入場料金 (基本料金)

一般：1,700 円 / 大專：1,500 円 / 小中高：1,000 円

- ※ 当日入口にて現金のみ。各回上映 10 分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。
- ※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくは HP やチラシにて。



📍 **アクセス** 【北ぶらくり丁会館 2F】本町公園より徒歩 1 分
北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い通りに
【北ぶらくり丁会館】の鉄看板アリ。奥の赤い階段を 2 階へ。

📍 **【駅から徒歩／バス】**
和歌山市駅より徒歩 10 分／バス 1～2 分(800m)
和歌山駅より徒歩 25 分／バス 5～9 分 (2km)

北ぶらくり丁会館 203 号室

シネマ203

cinema203

11 月の上映

夜の外側
イタリアを震撼させた55日間
ESTERNO NOTTE
Marco Bellocchio

Chime
Kiyoshi Kurosawa

東京流れ者
A Master piece by Seijun Suzuki
2024.11

殺しの烙印
2024.12

けんがわぬじい
2025.01

シリーズ
再発見・
Seijun Suzuki



和歌山市中ノ店北ノ丁22
北ぶらくり丁会館 203 号室
090-8172-7074

cinema203.com



🎬 歴史的事件の闇をこじ開ける……べらぼうに面白い 6 話シリーズの巨編登場

1978 年 3 月 16 日、イタリアで。国家を揺るがす元首相アルド・モーロの誘拐事件、勃発——晩秋に、見応えたっぶりの骨太な一大巨編をお届けします。政界のキーマンを奪われた政府、友人の無事を祈るローマ法王パウロ 6 世、実行犯「赤い旅団」の女性メンバー、家長の帰りを待つ家族……それぞれの立場で窮地に立たされる事件の“外側”が、6 つのエピソードで描かれていきます。次第に明らかになる社会の闇、人間の闇の先には、何があったのか、なかったのか。物語を追いながら、東西に分かれていた世界の中で揺れるイタリアについて、信仰について、絆について、思い巡らしながら没頭する充実の時間を、前・後編 2 本に分けてお楽しみください。

マルコ・ベロッキオ監督は、今月 9 日で 85 歳になるイタリア映画界屈指の実力派。70 年代の作品群がなぜか日本ではごっそり未公開なのですが、近年続々公開された野太い作品群に圧倒され、「1 本の映画でなく 6 話のシリーズで」と挑んだという本作を心待ちにしていました。『ゴッドファーザー』を見たら、続けて『PART II』も見ずにはられないような大作……しかも本家本元イタリアより！ この音楽、この情熱、この歴史感覚。VIVA! ITALIA!! の 11 月です。



『夜の外側 イタリアを震撼させた 55 日間』

監督：マルコ・ベロッキオ

配給：ザジフィルムズ

(2022 年／伊語・英語／伊映画／340 分)

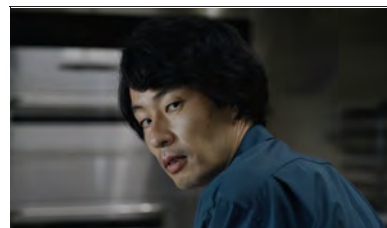
※前編（1～3 話）／後編（4～6 話）各 170 分を別々に上映

【前・後編 各料金 | それぞれ 一般 ¥1,700】

🎬 笑っちゃうほど怖い！ ホラーでもサスペンスでもない“黒沢清が描く恐怖”

「私は、どこにでもいる平凡な中年男である主人公がチャイムによって突き動かされ常識と非常識のあいだを行き来する様を描いてみた。彼は終始不安だ。しかし確信もしている。この非常識こそが、彼をがんじがらめに縛り付けている現代社会のモラルや正義や良心の隙間からするとと抜け出すことのできる、一種の自由でもあるのだと」（黒沢清監督ステートメントより）

ジストシネマ和歌山で見た日活映画『Cloud』が面白すぎました。新しい映画公開／鑑賞の形に挑む映像配信プラットフォーム Roadstead が、黒沢清監督に発注したオリジナル作品第一弾。「自由に作品を制作してほしい」というオーダーに応えた 1 本を、和歌山でも是非。昔ながらの劇場上映でお届けします。



『Chime』

監督・脚本：黒沢清

出演：吉岡睦雄、田畑智子、渡辺いっけい ほか

配給：Stranger

(2023 年／日本語／日本映画／45 分)

【入場料金： ¥1,500 均一】

🎬 〈再発見“Seijun Suzuki”〉本当の天然色で蘇るゴキゲンな娯楽映画で開幕!!

11 月より、新シリーズ〈再発見〉をスタートします。映画の愉しみをさらに加速してくれる映画も見たいな……ということで、まずは鈴木清順監督の 3 本から！「この中に、ジャームッシュもタランティーノもウォン・カーウアイもみんな居る」9 月に渋谷の Bunkamura ル・シネマで公開された『東京流れ者』には若者たちが驚くほど詰めかけ、上映が延長されました。

そんな流れを受けて第一弾は、昨年、鈴木清順監督生誕 100 周年を記念して 4K デジタルで「本当の色」に復元された『東京流れ者』を。目の覚めるような色彩（美術はもちろん木村威夫さん）に加えて、時間と空間を超える奇想天外なアクションの数々も、長篇主演デビューのフレッシュな渡哲也と、憂いたっぶりの松原智恵子の熱演も初々しく蘇っています。

年末年始は、続けて宍戸錠主演『殺しの烙印』(67)、高橋英樹主演『けんかえれじい』(66)を上映します。今年も良い年越しになりそう！



『東京流れ者 4K デジタル復元版』

監督：監督：鈴木清順

原作・脚本：川内康範 | 撮影：峰重義 | 照明：熊谷秀夫 |

美術：木村威夫

キャスト：渡哲也、松原智恵子、二谷英明、川地民夫

デジタル復元：IMAGICA エンタテインメントメディアサービス

配給：日活 （1966 年／日本映画／83 分）

🎬 娯楽映画、万歳！ エンターテインメントは国境を超える

2 ヶ月にわたる特集がしっとり終了。「アジア映画ファン」の皆さんの静かな熱気に、その人気を再確認しました。『赤い糸』から『本日公休』まで多彩な台湾映画 4 本をはじめ、どこか素朴でまっすぐなアジアの映画をグッと身近に感じました。多謝。

『至福のレストラン』は、4 時間と長尺のドキュメンタリーで負担が大きいかと心配でしたが、オズキッチンや原農園をはじめ、商店街の飲食店のお力添えのおかげで多くの皆さまにご参加いただきました。幸せな 1 周年記念上映に、深謝。

「やっぱり映画は、まず面白くあってほしい」あらためて初心に帰った 9 月～10 月でした。

夏から予告篇を上映しているマルコ・ベロッキオ監督の大作は、文句なしの娯楽大作。固唾を飲んで事件の行方を見守る。「それから？」と前のめりになる。スクリーンからにじり寄って来るヨーロッパの底力、人間の迫力に圧倒される。映画を見た～という余韻の中で、“人間の条件”についてあれこれ考えてしまう帰り道の充足感がたまりません。

🎬 次回の本町文化堂 [音楽と無声映画] は 12/1(日)に開催予定。もちろん鳥飼りょうさんのピアノで！

🎬 🎬 🎬
ほかに「面白い映画を作ろう」としていたとなると、やはりプログラムピクチャーの時代から、鈴木清順監督の名前がふと浮かびました。「わけのわからない儲からない映画を作る奴はいらん」と会社をクビになったものの、いつしかレジェンドとして世界中でお手本にされ、映画ファンから愛され続けるその魅力に迫ります。自分に忠実に行けるところまで行ったサラリーマン時代の代表作を、ピカピカに輝く主演スタアを愛でながらどうぞ。

併せて、どこにも専属していないのに、プログラムピクチャーを自らに課している（？）黒沢清監督の話題作も急ぎよ上映。『蛇の道』『Cloud』とあわせて、黒沢イヤーの記憶に刻ってください。

🎬 🎬 🎬
年明けは、映画と映画館にまつわる軽やかな新作を、順次お届け予定です。その前に年末の上映は？ とご心配の皆さま。無事に決まるよう祈りながらお待ちいただけましたら幸いです。

(北ぶらの飯炊き女より)